

高等学校における補助教材としての動画教材等の活用事例

《授業前（予習）における活用例》

- 地理総合の授業において、教師支援型の遠隔授業を実施した際に、受講する生徒が事前に動画教材を視聴しておくことで、授業当日には、生徒が動画の中で感じた疑問や教員から提示される新たな問いを素材として、対話的・協働的な学習が展開された。

《授業中における活用例》

- 物理等の授業において、
- ・探究的な学びの導入となるよう、実験やシミュレーションの動画を提示し、生徒が現象に対して問いを持ちやすくなるように活用した。
 - ・解説動画等を活用することで、教師が一斉に説明する場面に代えて、生徒が動画を参照しつつ主体的に考えたり、他者と協働して学びを深めたりする活動時間の確保につながった。
- 英語の授業において、
- ・教科書内容に関連した動画などで導入を行い、関心を起こさせるとともに、簡単な背景知識を与えた。
 - ・本場の英語を聞き取らせる、文化的な側面に触れさせることを目的に、季節行事の際は関連するコメディードラマの一部を見せ、聞き取れた単語や興味をもった場面などについて生徒に質問した。
 - ・単元のテーマが生徒にとって馴染みのない場合、内容に入る前の導入として動画を活用した。できるだけ生徒が身近に感じられる内容を心がけ、例えば、県内の事例をアニメ化した動画や、写真だけではイメージしにくいテーマに対しては、バーチャル映像で紹介している動画を活用した。
- 英語の授業におけるパフォーマンステスト（ALT との会話テスト）に関して、
- ・練習では、生徒が説明している様子を支援教員が録画した。生徒はその動画を視聴し、ルーブリックと照らし合わせて振り返りを行ったうえで、教員から個別に送られたフィードバックも参考にしながら、再度練習を行った。
 - ・パフォーマンステストはビデオ通話アプリを使用して実施し、録画をした。テスト後、生徒は自分のパフォーマンス動画を視聴して客観的に振り返りを行い、教員は授業後に動画を確認し、フィードバックを行った。

○情報の授業の展開部分において、教科書内容に関連した動画を内容説明の補足として活用した。基本は3～5分程度の動画を、アルゴリズムとプログラミングの単元では8分程度の動画を使用した。

○トピックごと／難易度ごとの動画教材（解説動画）を作成・配信し、

- ・個々の生徒の学習支援と学習の最適化を図り、授業中に生徒が自律的に活動する時間を増やした。
- ・生徒がグループワークにおいて提示された課題に取り組む際にも活用し、生徒同士の協働的な学びを促した。

≪授業後（復習）における活用例≫

○数学の授業において、Web 解説動画が視聴可能な数学問題集を配信教員・受講生徒ともに購入し、授業後に以下の取り組みを行うことで復習の円滑化を図るとともに、すぐ復習できる環境をつくった。

- ・授業後、当日扱った内容の類題の動画を、LMS で周知。
- ・教科書の練習問題と動画の対応表を、LMS で周知。

○授業を毎回録画し、解説部分を動画として LMS で共有することで、通信の不具合時の事後フォローや復習教材として活用した。

≪その他の場面での活用例≫

○夏休みの宿題として、生徒が数学問題集の Web 解説動画を繰り返し見て「理解（納得）できたこと・できなかったこと」をクラウドツールで作成した表に入力し、理解できないことに対しては、配信教員が解説を加筆した。